

# 帯広圏デジタル化推進協議会 アドバイザリーボード

## 第5回会議 議事概要

日時：令和5年10月16日（月）

13時00分～14時30分

場所：帯広市役所10階第5B会議室

### 1 議題1：帯広圏デジタル化推進構想（原案）について（意見交換）

- ・はじめに、配布資料について事務局より説明し、次のとおり意見や質疑を行った。要旨は以下のとおり。

#### （1）総論編について

##### 委員

- ・P.4「帯広圏としてデジタル化に取り組む背景」について、地域特性については触れられているが、デジタルの視点からみた地域のポテンシャルについても記載があっても良いと感じた。
- ・P.7「基本的な考え方」に、「ローカルハブ」とキャッチフレーズ中の「世界的拠点（ハブ）」という2つのハブが出てくる。この意味合いを整理した方が良いと感じた。花の例でいうと、世界的に有名なオランダのアールスメール花市場は、アフリカの花がそこを経由して日本に届くなど、文字通りの「世界的拠点」。「食と健康」というと畜産物の物流を想起するが、花の例と比すると当構想でキャッチフレーズに「世界的拠点（ハブ）」を入れることには唐突な印象を持った。

##### <神尾委員長>

- ・地域全体を指したり、空港や鉄道駅をハブと言ったり概念は複数ある。当構想においては、「ローカルハブ」と「ウェル・ビーイングエリア」を総称したものがローカルハブといえる。

##### <委員>

- ・ローカルハブには、帯広圏1市3町のどこに住んでいても、人や情報がデジタルで繋がっていて、地域の中心になれるイメージを持っている。これが「世界的」ともなると、どのように理解すればよいか。

##### <神尾委員長>

- ・世界中と人や情報の往来があってこそハブと言える。「世界的拠点」と表現するかはともかく、そうした姿を目指していかなければいけない。これまで大都市が中心となり回ってきたところを、経済的にも人的にもインフラの面でもダイレクトに世界と繋がるイメージ。

##### <委員>

- ・「食の拠点」や「食と健康の拠点」であって、「世界」は前後に付すイメージか。これまで進めてきた「フードバレーとかち」よりは一段大きい。ローカルとワールドワイドのどちらであっても「ハブ」は大事だと思う。

### <神尾委員長>

- ・これまで大都市が中心であったところ、今後はデジタルの力を借りて地方が中心となる地域作りにチャレンジするようなイメージ。

### 委員

- ・P.7「基本的な考え方」について、なぜデジタル化が必要か、という点についてもう少し掘り下げて良い。地域の強みに対し、弱みがありそこをデジタルの力で補完するとこうしたポテンシャルが引き出せる、といった説明があると良い。
- ・地元の人だけではなく、デジタルも含めて、この地域と繋がった人全員が「住民」であり、その全員を巻き込んで幸せにするといった少しキラキラ感のある纏め方があってもよい。

### <神尾委員長>

- ・「住民」の定義は様々だが、この構想では従来の「関係人口」より広い概念として「共鳴人口」というものを打ち出している。

### <委員>

- ・「共鳴人口」という概念は面白いと思う。P.4「帯広圏としてデジタル化に取り組む背景」で、地域にはポテンシャルはあるが不足しているところもあり、足りない部分を補完するために「共鳴人口」が必要で、繋がる手段として「デジタル」を活かすという文脈は考えられる。

### 委員

- ・キャッチフレーズについて「デジタルが創る」は若干違和感がある。トレンドとしても、「市民がデジタルを使う」「デジタルと共に歩む」といった、デジタルを中心に据えない形が多い。
- ・タイトルについて「デジタル化推進構想」としているが、議論を進めた結果として「DX推進構想」といった表現もありうるのではないか。「デジタル化」には業務改善のイメージが強い。構想における位置づけとしてローカルハブの方に多少でも重きを置くのであれば、そういった表現があっても良いと思う。
- ・「ハブ」がどうしたら出来るかを考えた時に、「データ」の扱いに関する記載が少ない印象。例えば、異なる分野や産業間が繋がる時の起点はやはり「データ」。最近では「都市OS」というワードもあるが、その様な要素が入っていても良いと思う。

### <神尾委員長>

- ・「デジタル」を中心に据えることで「何かが起こる」「ローカルハブの地域作りに繋がる」といった期待感をストレートに伝えることを意識した。

### <委員>

- ・デジタルは「基盤」というより、「サポート」や「下支え」といったイメージがある。「デジタルにより何かを変えよう」という文脈で読まれると、それをおこがましく感じる人もいないかもしれない。

- ・「データ連携」が不足しているのは同感。「住民向けサービスの共通化・標準化」についても、ポジショニングを少し考える必要あるかと思う。

#### <委員>

- ・進め方として、進んでいる分野とそうでない分野があり、例えば、「教育」や「医療」の場合、デジタル化が進んでいない領域は、デジタル化を進め、その次のステップとしてデータを繋げ、その次に産業を繋げる、といったステップが考えられる。今回の構想で令和10年に「繋がっている姿」を目指すのであれば、そのような姿が想起できる表現ができるかよいか。

#### 委員

- ・マイナンバーを活用したハッカソンや、データのオープン化などにも取り組めたら面白い。公民館や図書館等を登録無くフリーパスで利用出来たり、然るべき手続きを踏めば自身のデータが見れたり、再利用できたりするなど、これまでより便利になることを実感できる取り組みに繋がらう。

#### <委員>

- ・マイナンバーカードに紐づけて様々なサービスを受ける事ができる仕組みはメリットがあるように思うが、他方、システム上難しい面もあるか。1市3町のローカルな仕組みが構築できても、応用が利かない可能性も考えられる。

#### <委員>

- ・ローカルであっても仕組みを構築し、国にアピールすることは必要と考える。

#### <神尾委員長>

- ・同感。地域のニーズや取り組みへの意志を国に伝えていく事は重要である。
- ・5年後にマイナンバー制度も含めた状況や提供可能なサービスをイメージしつつ、施策を考えていく必要がある。

#### <委員>

- ・以前に、一生に一度も市役所に来なくても済む姿が理想と発言したが、それに近い感じで、一生に一度も手で登録申請書を書かない、といった姿は考えられる。

#### <神尾委員長>

- ・ヨーロッパでは、かなり以前からワンスオンリーが実践されている。本人によほどのメリットがない限り、2度目の情報取得は行わないことが貫かれている。

#### <委員>

- ・例えば、証明書を発行するという事についていえば、申請部分については既に「コンビニ」でなく「オンライン」の申請により手元まで届く仕組みに取り組んでいる自治体があるので、目指すところは「コンビニ」ではないと考える。また、それ以前に証明書を発行するという事自体、自治体とその提出先が繋がっていれば不要ともなる。こうした前提で施策を考えていく必要がある。

## 事務局

- ・デジタル化が必要な背景の部分については、これまでの検討で「はじめに」の章にのみと記載した経緯があるため、再度「デジタルに取り組む背景」や「基本的な考え方」の記載について検討する。
- ・「共鳴人口」という表現については、「基本的な考え方」にも記載することを検討する。
- ・キャッチフレーズの「デジタル」という表現については、委員からの事前意見等も踏まえ、「DX」などの表現に切り替えることを検討する。

### <神尾委員長>

- ・帯広圏の人口が減っていく状況下で、デジタルをどの様に効果的に活用していくか、地域の問題意識や特徴とともに盛り込めればと考える。また、本構想の期間は5年間だが、その期間でデジタル戦略が完結するわけではない事の表現も検討したい。
- ・1市3町の広域行政サービスを、デジタルが裏で支えているというニュアンスも出せればと考える。国も広域でのデジタル戦略に注目しているため、この表現も事務局と相談したい。

## (2) 各論編について

### 委員

- ・「プロジェクト」部分については、これまで議論されてきた内容がほぼ記載されている。
- ・マイナンバーカードに関する記載は、国も注目している部分なので、コンビニ受取ではなくオンライン申請をゴール設定にすることがよい。
- ・「生成 AI」は、行政の枠組みで記載するとしたら、議事録の自動作成や行政データの効率的な分析など、職員の負荷削減のような表現がよい。
- ・「4自治体実務者DX研究会の設置」は、構想を推進する基盤になる存在だと思う。その発展として社団などを作り構想が計画となり、実装に繋がっていく流れが想起できるとよい。

### <神尾委員長>

- ・研究会は既に検討をしているのか。

### <事務局>

- ・未だである。今後、きめ細やかな情報共有を行う必要があると考え記載したもの。関連して「DX支援プラットフォームの検討」については、地元の金融機関や企業でも十分なDX支援体制を構築出来てないという声もあったので、そうした取り組みを着実に進める意図で経済部とも協議し記載したもの。
- ・マイナンバーカードによるオンライン申請は住民ニーズも高く分かりやすい事例として、表現できる余地がある認識。

### <神尾委員長>

- ・行政内部のデジタル化や市民向けのデジタルサービスについて、どこまで具体的な記載ができるか、カテゴリ分けも含めて検討したい。

## 委員

- ・「生成AI」は、行政の分野においてはこういった利用を検討しているか表現しておく不安感は減ると思う。生成するだけでなく、文章校正や職員の相談相手となりメンタル面を支えるといった役割も期待できる。

## 神尾委員長

- ・後半のローカルハブに関する記載で、「エネルギー」や「脱炭素」などを含めた「クリーンエネルギー」や「再生可能エネルギー」などのプロジェクトがあっても良いと思う。

### <委員>

- ・グローバルな視点で言うと、最近では「デジタル」より「グリーン」がトレンドな印象。再生可能エネルギーを利用した「モビリティ」や「物流」などを上手く繋げられると良い。

### <委員>

- ・外部の資金を獲得し、環境にやさしい農業により「カーボンシフト」に取り組んでいる、といった表現があってもよい。

## 神尾委員長

- ・参考指標に「創業率」や「スタートアップ成長率」といったものは必要ないか。大都市とは異なる尺度の何かが入っていても良いと思う。

### <委員>

- ・市外から資金調達をして経営しているのは数社程度だと思う。VC（ベンチャーキャピタル）がないため、地元の金融機関に頼る構図。資金に関しては、規模よりもしっかりと地域に還元される仕組みが重要と感じる。

### <神尾委員長>

- ・ローカルハブの話題となると地域経済に触れざるを得ないが、産業や経済政策との調整も必要。

## 3 閉会

今後の流れについて、事務局から説明し閉会した。

## 事務局

- ・今回の議論を踏まえ事務局原案を修正し、次回、書面会議により再度の確認を依頼する。
- ・その後は、11月2日に開催予定の協議会において原案を決定し、パブリックコメント等を経て令和6年2月の議会報告、3月の協議会にて構想を決定させる予定。

以上